



企画営業課係長  
大西 康之

大西 康之の  
指導

# いきいき 菜園生活

一段と寒くなってきました。  
今月は2~3月の  
「青物」が少ない時期に  
収穫できるコマツナ栽培の  
紹介です。

## コマツナの栽培と 玉ねぎの管理作業

### コマツナの栽培

#### コマツナの栽培

##### ●畑の準備

種まきの2週間前に、10平方メートル当たり堆肥20キロ、苦土石灰1・5キロ、化成肥料1キロを目安に施用し、うね幅は120センチで高めにうねを立てます。

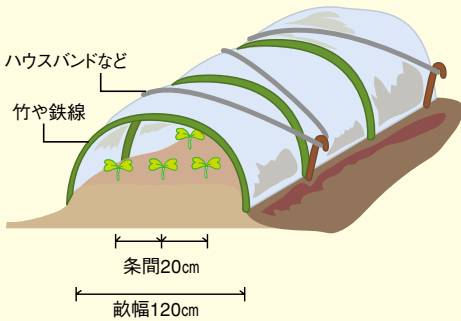
##### ●種まき

条間20センチの4条に条まきし、薄く覆土をします。

##### ●トンネル被覆

種まき後は十分に水やりし、ただちにビニールやポリフィルムのトンネルで被覆します。

竹を割ったものや鉄線などを土に挿し込み、その上にビニールなどを被せ、



ビニールの端は土をかけて押さえるなど風で飛ばされないようにしっかりと固定し、本葉2~3枚目の頃まで密閉し管理します。

##### ●間引き・追肥

本葉2~3枚目の頃から、最終には5~6センチの間隔となるように間引いていきます。

間引き後は、条間に10平方メートル当たり化成肥料300グラムを目安に施用し、軽く耕しておきます。生育の途中で肥料の効き目が落ちないように適時施用しましょう。

##### ●管理

よく晴れた日には、トンネル内の温度が上がって軟弱な育ちとなるのを防ぐために、適時換気を行います。

##### ●収穫

草丈が20センチぐらいになったら、順次収穫します。

##### ●プランター栽培

また、コマツナは簡易なトンネルを設置してのプランターでも栽培できます。

深さ15センチ程度の標準的なプランターに2条まきし、込み合わないよう順次間引きを行います。

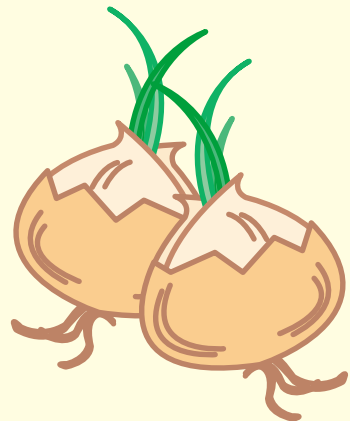
### 玉ねぎの管理作業

##### ●追肥

玉ねぎは生育期間の長い作物であり、生育の途中で肥料切れを起こさせないよう追肥を行います。

しかしながら、貯蔵中の腐敗が多いとされる一因に、「生育後半から収穫間際までの間に肥料分が効いている場合」があり、1回目は12月上旬頃、2回目は1月中旬頃、最終3回目は2月下旬頃とし、最終の2月下旬頃以降の追肥は行わないようにします。

追肥の量は、それぞれ10平方メートル当たり化成肥料200グラムを目安とし、条間に施用します(マルチ栽培の場合はマルチの上から施用します)。なお、腐敗の要因には病害もありますので、防除の徹底も心掛けましょう。



### 玉ねぎの管理作業